

## 教育旅行の受入に関するアンケート調査結果

回答者：道内のコーディネート団体 9団体

空知DEい〜ね、長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会、(一社)千歳観光連盟、(有)マルベリー、津別町グリーン・ツーリズム協議会、美幌町農村ツーリズム推進協議会、(有)アグリック、NPO法人食の絆を育む会、南知床標津町観光協会

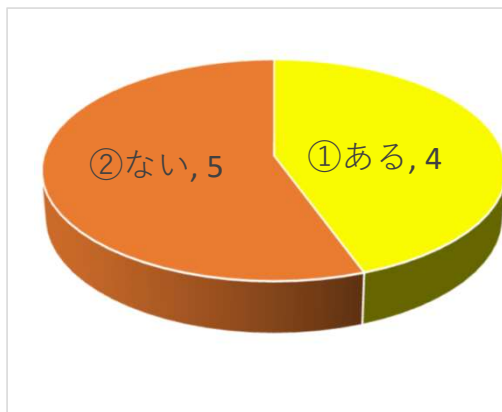
## I 本年度の受入について

## 1 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）はございましたか。

① ある  団体

全受入学校数	36
内訳： 道内学校	1
道外学校	35

全受入生徒数	3,511
内訳： 道内生徒数	75
道外生徒数	3,436



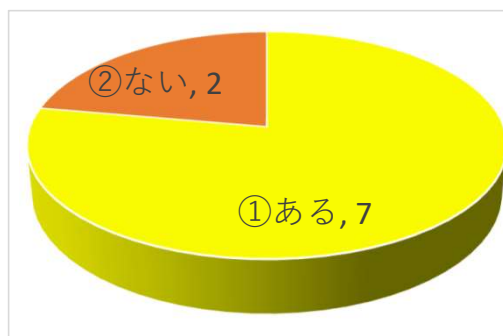
② ない  団体

## 2 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）はございましたか。

① ある  団体

全受入学校数	34
内訳： 道内学校	6
道外学校	28

全受入生徒数	5,809
内訳： 道内生徒数	889
道外生徒数	4,920



(上記のうち、農家以外へのホテル等の宿泊状況)

全受入学校数	9
内訳： 道内学校	1
道外学校	8

全受入生徒数	1,280
内訳： 道内生徒数	187
道外生徒数	1,093

② ない  団体

## 3 本年度の受入れでお断りした学校数・生徒数等について

## (1) 農家へ農泊を伴う受入（ファームステイ）のお断り数

ア 本年度、農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）でお断りした学校等はございましたか

①ある  団体

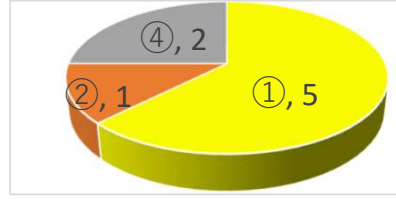
お断り全学校数	27
お断り全生徒数	4,773



②ない  団体

イ 上記のファームステイでお断りした理由（複数選択可）

- ① 受入キャパが足りなかった
- ② 受入日が重なっていた
- ③ 受入価格が合わなかった
- ④ その他



- ・ 受入農家がコロナ後、少なくなった
- ・ コロナ明けのため、受入の見込みが十分でなかった

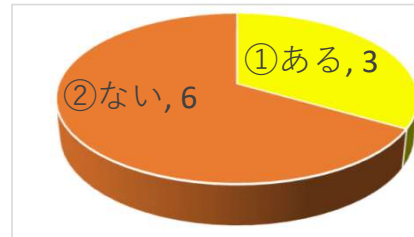
(2) 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）のお断り数

ア 本年度、農家へ宿泊を伴う受入（ファームヴィジット）でお断りした学校はございましたか

- ①ある  団体

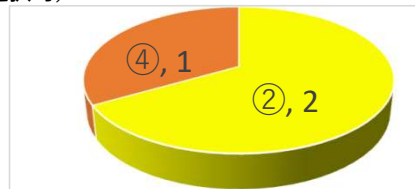
お断り全学校数	17
お断り全生徒数	3,300

- ②ない  団体



イ 上記のファームヴィジットでお断りした理由（複数選択可）

- ① 受入キャパが足りなかった
- ② 受入日が重なっていた
- ③ 受入価格が合わなかった
- ④ その他

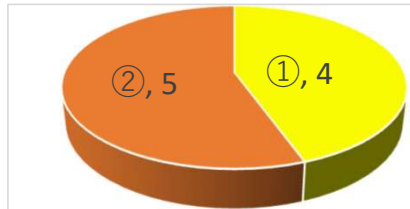


- ・ 受け入れ農家がコロナ後から少なくなった他、受け入れ農家の高齢化に伴い受け入れができないと断られるケースが多くなってきている

4 貴団体がコーディネートする本年度の教育旅行の受入人数は、昨年度（R4年度）と比べてどうでしたか

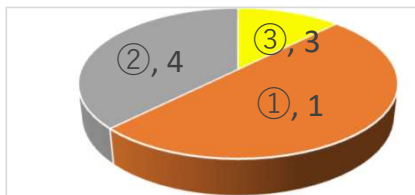
(1) 農家へ農泊を伴う受入（ファームステイ）

- ① 増加した
- ② 横ばいである
- ③ 減少した



(2) 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）

- ① 増加した
- ② 横ばいである
- ③ 減少した



5 コロナが5類へ移行しましたが、コロナの感染症対策について何か実施している場合は記載願います。

- ・ こちらとしましては、マスク着用など感染対策はお願いはしておりません。
- ・ 学校側の意向に一任しております
- ・ ビニルハウス内・室内での作業について、場合によっては受入農家からマスク着用の依頼がある旨を事前に伝えている
- ・ 引き続き、こまめな手洗いなどの基本的な感染対策は継続。体調不良の生徒さんがいる場合は、直ちに本部（弊社）に連絡をしていただきその後の対応を学校と協議し速やかに対応できる準備をしています
- ・ 5類移行のため、細かく対応のお願いをしていないが、必要に応じて手洗いやアルコール消毒の徹底、食事の準備中はできるだけマスク着用など
- ・ 毎日の体調チェック、感染状況によりマスクを着用（受入側）、学生の感染予防対策は学校との都度打合せ
- ・ マスクの着用について、個人の判断

6 本年度の受入は昨年度と比較し、教育旅行の需要や受入農家の状況などはどうだったか記載願います

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年より利用団体は増加しておりますが、農家さんの受入れ件数を確保するのが毎年厳しい状況になっております</li> <li>・ 需要と供給のバランスが崩れてきておりますので、早急な対策が必要と考えております</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナがら類へ移行したことでファームステイを再開したが、昨年度は全て中止となったため比較することができない</li> <li>・ また、ファームビジットについては田植え体験事業を除けば大きな増減はないが、受け入れできない期間が長く続いたことで受入農家の減少につながり、結果として受入可能人数を制限しなければならなかった</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ以降受け入れ農家のモチベーションが落ち、受け入れしていない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナを機に受け入れをやめた農家さんが戻ってくることはありませんでしたが、新規に始めてみたいという方の声が増えてきた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナが明けで、とくに民泊の要望が多い 学校現場ではすでにアフターコロナでの対応で授業やイベントが進んでいるため、コロナに対してあまり抵抗はないが、受入側（とくに高齢の方がいる家）ではまだ心配な部分があり受入を見合わせる農家が多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルスの影響に限らず、高齢化や家庭の事情など、様々な理由で受け入れ家庭が減少傾向にあると感じた</li> <li>・ 一方、教育旅行は、コロナ禍以前に近い形での実施に戻ってきており、ファームステイの需要も戻ってきていると感じた</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家への宿泊を伴う受入や日帰り農業体験の受入は、旅行会社（学校）から問い合わせは受けているが、グリーンツーリズム受入組織と再開に向けた協議中のため、本年度の受入の実績はない</li> <li>・ 教育旅行全体としては、本年度は、学校は約30校訪れており、学校（旅行会社）の要望に応じ、体験、昼食、宿泊（※ホテル・民宿）のプログラムを提供し受入を対応している</li> <li>・ グリーンツーリズム受入組織との協議を行い、受入農家毎に得意な部分が異なる（民泊、調理体験、講話、体験受入等）ため、再開時は、画一的なメニュー提供ではなく、受入農家の自主性を踏まえた受入方法が必要と考えている</li> </ul>

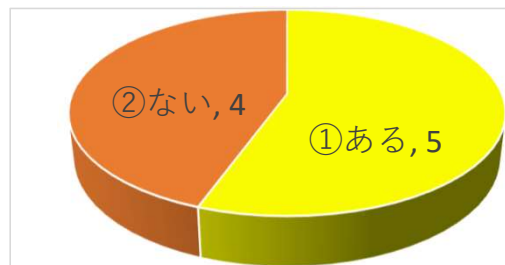
II 来年度の受入について

7 来年度の農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）の予定（予約）はございますか

① ある

全予約学校数	30
内訳： 道内学校	2
道外学校	28

全予約生徒数	4,067
内訳： 道内生徒数	290
道外生徒数	3,777



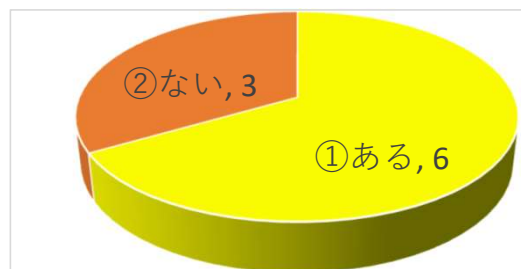
② ない

8 来年度の日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）の予定（予約）はございましたか

① ある

全予約学校数	29
内訳： 道内学校	4
道外学校	25

全予約生徒数	5,612
内訳： 道内生徒数	626
道外生徒数	4,986



② ない

9 来年度以降の受入に関する対応について現時点の御予定などを記載してください

<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も増加傾向にあるので、早い段階から農家さんに受け入れのお願いする</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>料金の改定を実施する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ファームステイは受け入れは不可。ファームヴィジットは現状維持</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>従来通りの対応に加え、道南方面への受け入れも強化したい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年 民泊 3校 360名ほど仮予約</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度以降、受け入れ上限を80名とする</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育旅行全体の受入（体験、昼食、宿泊）の対応は引き続き行う。</li> <li>ファームステイやファームビジットについては、希望する学校（旅行会社）があった段階で、受入可否を検討・対応する</li> <li>また、グリーンツーリズム受入組織と協議し、コロナ明け再開に向け、1回目の受入が重要と考えるため、農業理解を目的とする学校で、グリーンツーリズム受入組織が取り組むことができるメニューで調整する</li> </ul>

10 今後の受入において、学校や旅行会社の申込みや問合せで新たな要望や変化がございましたら、記載してください

<ul style="list-style-type: none"> <li>予約受け入れ時に、農家さんが毎年減少していることでギリギリまで農家さんが決定しない状況が毎年起こっておりますので、その辺も含めて誤解が生じない様に、旅行会社から学校さんに伝える必要があるかと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業学校や農業科など、農業の専門生徒を擁する学校からの申し込みが増えてきており、実践的な農業体験の要望が来ている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年問題により、旅行行程に影響する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験については民泊希望が多い</li> <li>SDGsや探求学習系の農業体験プログラムについての要望が多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪市の商談会に参加した際、関西地方は修学旅行費の上限が減額される動きになっており、特に奈良県は6万円が上限となり、北海道への旅行が出来なくなったとのこと。北海道への修学旅行に対し、別の補助金があれば…というようなお話がありました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校交流（地元の生徒との交流）</li> <li>いのちを感じられるプログラムの実施</li> <li>地域への滞在を増やすための、学校の行程の見直し、近隣空港の利用検討</li> </ul>

11 今後の教育旅行の受入について、新たに検討している受入手法がございましたら、概要を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>教育旅行の需要が増えてくる中、今まで以上に各市町村と連携を図り、少しでも多くの農家さんに協力していただけるように、アフターフォローやコミュニケーションなど密になって受け入れ態勢を整えたいと考える</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジット（日帰り）体験において、以前はガイド主導だったが、現在は生産者主導に変わってきている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsプログラム（ワークショップ）の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>民泊がベストではあるが、地域のキャンプ場等にある自炊型バンガローに農家も滞在しながら民泊をする（受け入れたいが空き部屋がなかったり、息子夫婦が対応したいが市街地の実家と別にアパートに住んでいるなど）</li> </ul>

### III 学習指導要領の改正に伴う探究型学習及びSDGsへの対応について

#### 12 探究型学習やSDGsに対応したプログラムを作成しましたか

- ① ある
- ② ない

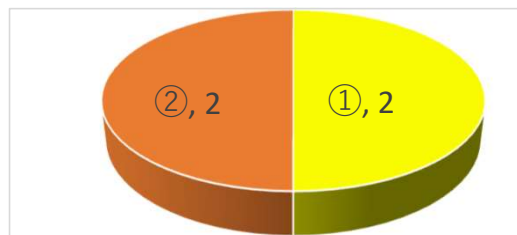


#### <プログラム内容>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイ箸づくり、SDGs 15番「陸の豊かさを守ろう」 割り箸は木材を使用するため、生産時に木を伐採し森林が減少します。 マイ箸を使用することで森林の伐採を減らす。 割り箸を使用することが悪い事では無いという事も伝える必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家だけの農業体験だけでなく、農協職員等が案内する農協施設の見学や食品会社の見学などを混ぜて身近な食がどう生産され流通されているかなどを学ぶプログラム</li> <li>・ 水資源を学ぶプログラム（水育ツアー、カヌー、ラフティング等で応用）</li> <li>・ まちなかを散策しながら自分の住んでいるマチと比較しアクティブラーニング形式で発表（事後学習）等をおこなうプログラム（マチ歩きBINGOプログラム）</li> <li>・ 野生動物と人間の関わり（農村の生態系について学ぶ）</li> <li>・ 森林資源と人との関わり（木育体験プログラム） など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオマスセンターの見学及び地域資源の循環に関する学習</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町の博物館と連携したSDGs関連の受入プログラムを設定している</li> </ul>
<p>（事前学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームステイのイメージをつかんでもらうサポート（十勝に関する紹介、農村ホームステイの流れについて紹介、質疑応答など）</li> </ul> <p>（事後学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農村ホームステイの振り返りを軸としたプログラム（家庭科実習を通しての「食育」や「キャリア教育」への応用など）</li> </ul>

#### 13 【12で②ないを回答された方のみ】今後、探究型学習やSDGsに対応したプログラムを検討されていますか

- ① 検討している
- ② 検討していない



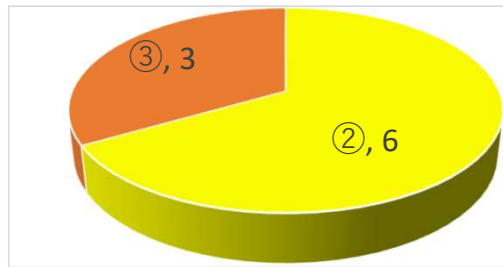
#### 14 12で②ないを回答された方のみ】今後、探究型学習やSDGsに対応したプログラムの検討にあたり、支障となっているもの、または、課題となっているものは何ですか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材不足</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連施設の協力が必要</li> </ul>

#### IV 受入農家（漁家）について

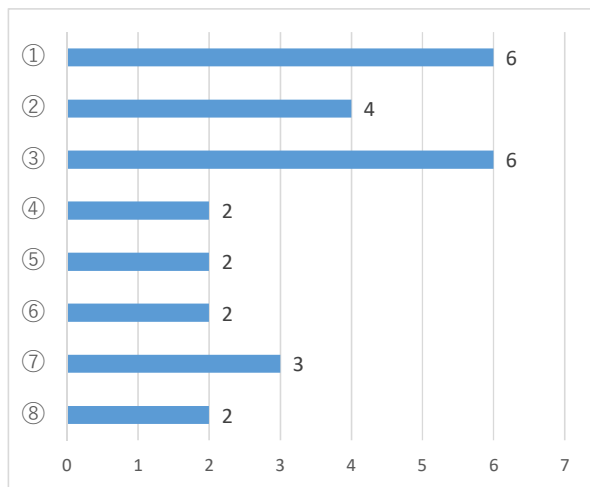
15 近年（ここ2～4年程度）の受入農家（漁家）の状況について変化はありましたか

- |           |   |
|-----------|---|
| ① 増加傾向    | 0 |
| ② 減少傾向    | 6 |
| ③ 概ね変化はない | 3 |
| ④ わからない   | 0 |



16 【上記15で②減少傾向を回答された方のみ】減少傾向の要因として該当するものを選択してください（複数選択可能）

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ① 高齢化や離農                 | 6 |
| ② 本業である農業が多忙による人手不足      | 4 |
| ③ 家庭の事情                  | 6 |
| ④ 受入のための食事に対する負担感        | 2 |
| ⑤ 受入のための宿泊に対する負担感        | 2 |
| ⑥ 労力・負担に見合った収入となっていないため  | 2 |
| ⑦ コロナ感染リスク・負担増から今後の受入を断念 | 3 |
| ⑧ その他                    | 2 |

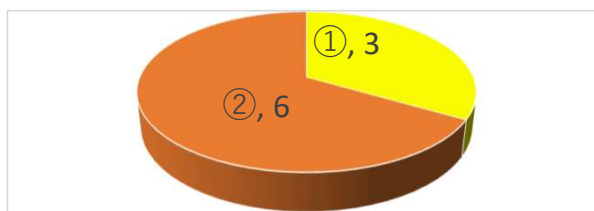


<その他の内容>

- 自分の子どもの成長に伴い客室が確保できなくなった。コロナ禍で受け入れがいきない時期が続いたため受入意欲が低下した
- ⑤に近いが、基本4名1班のグループのため、受入たいが2名までなどの制限があり、受入を断られる場合もある

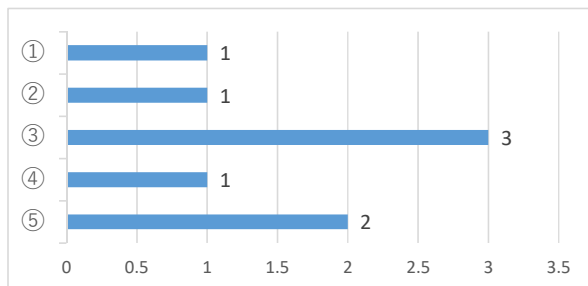
17 近年（ここ2～4年）、新たに受入を始めた農家はいますか

- |         |   |
|---------|---|
| ① いる    | 3 |
| ② いない   | 6 |
| ③ わからない | 0 |



18 【上記17で①いるを回答された方のみ】新たに受入を始めた農家が、受入を決めた理由と思われるものを選択してください（複数選択可能）

- |                 |   |
|-----------------|---|
| ① 農業以外のいきがいを求めて | 1 |
| ② 社会教育などへの参加のため | 1 |
| ③ 農業の理解を広げるため   | 3 |
| ④ 所得拡大のため       | 1 |
| ⑤ その他           | 2 |

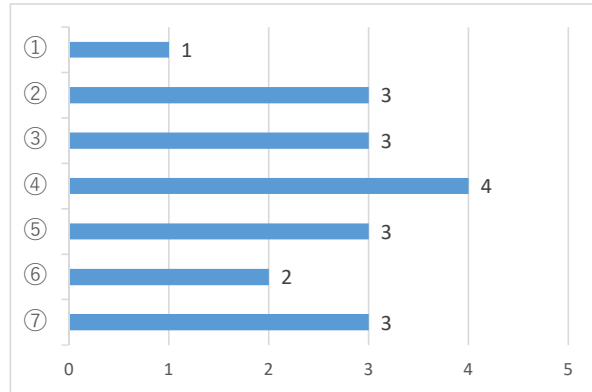


<その他要因>

- 新規就農で自分の農業のPRや、以前より体験や民泊の受入をしてみたいと思っていた
- 近年、新型コロナウイルスの影響により、ファームステイは未実施のため

19 受入農家を増やすために、貴団体が令和5年度実施した内容を選択してください（複数選択可）

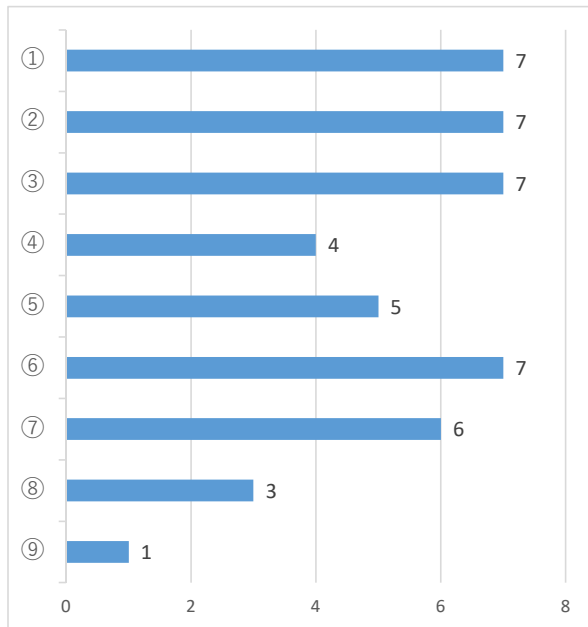
- ① 特に実施していない
- ② アンケート調査
- ③ 市町村・農協等の関係機関からの勧誘
- ④ 農家・知人等の紹介
- ⑤ セミナー・勉強会の実施
- ⑥ 貴団体独自ルート
- ⑦ その他



- 直接農家さんを訪問
- 農業者の会合でPR
- 農家の方が集まる会議等に訪問し、団体の紹介

20 受入農家を増やしていく（維持していく）ための手法として効果的と考えられるものを選択してください（複数選択可能）

- ① 地域の代表者などからの勧誘
- ② セミナーや勉強会の開催
- ③ JA女性部やJA青年部など農業団体の組織内での勧誘
- ④ 北海道指導農業者・農業者との連携による勧誘
- ⑤ 教育旅行受入の未実施市町村の受入意識醸成と連携
- ⑥ 地域ぐるみによる受入農家の負担軽減(食事対応、宿泊施設利用等)
- ⑦ 受入時の収益性の改善（受入単価の引き上げ等）
- ⑧ 農家の負担を軽減するため、農業体験のほ場だけを提供してもらい作業のガイドを手配
- ⑨ その他

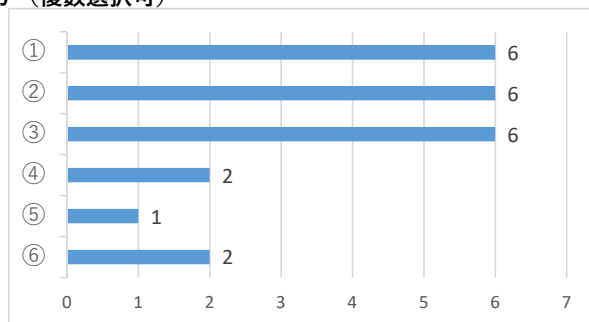


- 地域ブランディングを進める中で、受入農家を増やす

V 受入にあたっての連携や取組成果等について

21 教育旅行受入にあたり連携している機関はありますか（複数選択可）

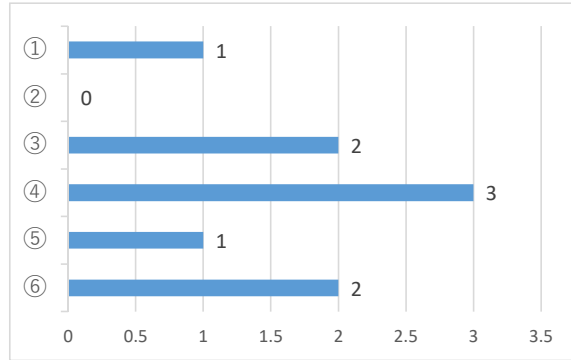
- ① 市町村
- ② 市町村内にあるグリーンツーリズム協議会組織
- ③ 農協、漁協
- ④ JA青年部・女性部
- ⑤ 北海道指導農業者・農業者
- ⑥ その他



- 農業改良普及センター
- 地域おこし協力隊等

22 教育旅行受入にあたり、現在は連携していないが、今後連携したいと機関はありますか（複数選択可）

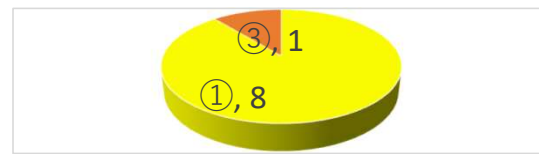
- ① 市町村
- ② 市町村内にあるグリーンツーリズム協議会組織
- ③ 農協、漁協
- ④ JA青年部・女性部
- ⑤ 北海道指導農業士・農業士
- ⑥ その他



- ・ 観光協会等の観光関連機関
- ・ 林業関係者

23 農村ツーリズム（教育旅行）の取組により得られた成果はありますか

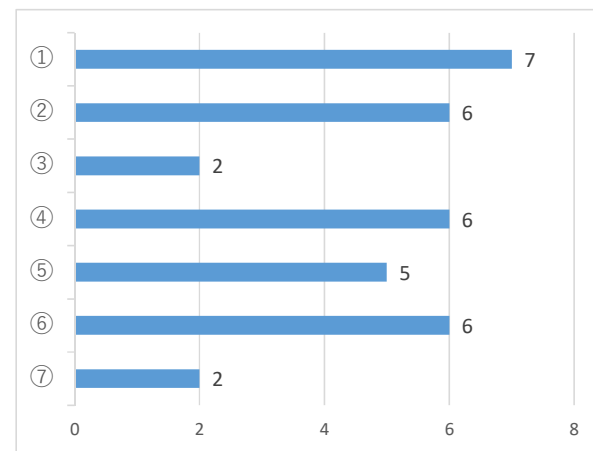
- ① 得られた成果はある
- ② 得られた成果は全くない
- ③ その他



- ・ まだ判然としない。

24 【上記23で①得られた成果はあるを回答された方のみ】どのような効果を実感したかを次のあてはまるものを全て、教えてください（複数選択可）

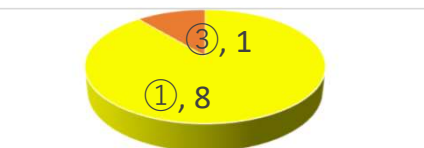
- ① 交流・関係人口の増加等による地域の活性化
- ② 農業や農村の理解促進
- ③ 地域の雇用創出や所得向上
- ④ 市町村の認知度向上
- ⑤ 地域の魅力向上や受入に伴う地域経済への波及効果
- ⑥ 受入者の自らの住む地域や自らの仕事の魅力を再認識
- ⑦ その他



- ・ 将来に繋がる社会貢献
- ・ スローフードへの理解促進

25 農村ツーリズム（教育旅行）のような都市と農村との交流の取組は、今後も継続していくことが必要だと思いますか

- ① 必要だと思う
- ② 不必要だと思う
- ③ その他

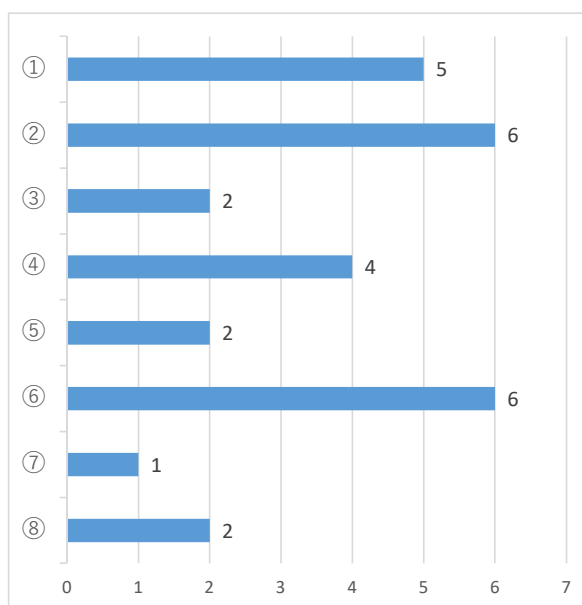


- ・ 地域ブランディングをする中で、農村ツーリズム（教育旅行）の位置づけを行う



26 教育旅行受入推進あたり、どんな目的のセミナー・勉強会の開催を望みますか（複数選択可）

- ① 受入意欲が低下した農家に対する受入再開のための意欲向上 5
- ② 新規受入農家を増やすため、受入のやりがいや効果等の理解促進 6
- ③ 各市町村のグリーンツーリズム協議会等への受入理解促進 2
- ④ 受入未実施市町村での地域関係者を集めた合意形成・意識醸成 4
- ⑤ 受入農家負担軽減のための地域ぐるみでの受入取組事例 2
- ⑥ JA青年部・女性部への受入理解促進と連携 6
- ⑦ 北海道指導農業士・農業士への受入理解促進と連携 1
- ⑧ その他 2



- ・ 教育旅行と農泊の両立について理解促進
- ・ 今後の教育旅行のねらいの傾向とその対策について

27 ファームステイ、ファームビジットについて、受入農家にとってそれぞれの長所と短所と思うところを記載願います

① ファームステイの長所

・ 衣食住を共にすることによってコミュニケーションが取れていく所
・ 受け入れた生徒たちとの交流の楽しさ・農業や食への理解促進
・ 若い人との交流により受け入れ農家の意欲が増加する他、農業の大変さやありがたみ、収穫物への感謝などが得られる
・ 生徒と受入農家が直接接する時間も長く、作業だけではなく日常の生活を体験することができる
・ 作業体験だけでなく「泊」を伴うことによって、農家の暮らしや生活を知ってもらえる ・ 滞在時間が長いので家族の中で作業や食事の準備など担当を分けて対応できる など
・ 収入の確保 ・ 学生との交流がより深くなる
・ 農業の理解を深めて応援団を増やすには農作業だけでなく寝食を共にする生活体験をしてもらうことで意思の疎通が図られる
・ 都会に住む子どもたちに農業の現状を理解してもらえる 家族のような繋がりの中で、農業について子どもたちに自分ごととして捉えてもらえる
・ 町の農業・農村の魅力の紹介・PR、農業や食への理解促進、消費拡大 ・ 農業者自らも豊かな人間性、生産者としての意識向上

## ② ファームステイの短所

• 最近の生徒さんは携帯を所持していることで部屋に籠ることが多くなった
• 受け入れ内容の準備を含めた負担感
• 負担感の増加
• 近年増加している生徒さんの様々なアレルギー対応などに配慮が必要
• 受入前の家や部屋の掃除、滞在中の生徒の安全管理 など
• 1戸あたりの受入人数が限定的になる
• 寝食を共にすることの家族の負担
• 受け入れをする負担感
• 受入時の負担が大きい
• 受入農家で得意分野と不得意分野がある

## ③ ファームビジットの長所

• 短時間で作業を共にすることにより達成感が得られる。
• 受け入れた生徒たちとの交流の楽しさ・農業や食への理解促進
• 若い人との交流により受け入れ農家の意欲が増加する他、農業の大変さやありがたみ、収穫物への感謝などが得られる
• 短い時間でも、農家さんの日々の取り組みや工夫、流通の仕組みなどを知り体験することができる。
• 民泊ができなくても農業体験の提供をおこなうことができる 滞在時間が日帰りのため作業や暮らしの体験のみに集中することができる など
• 一戸あたりでも30名～40名程度受入が可能のため、大人数の旅行でも受入ができる
• 寝食を共にしないので家族の負担が少ない • 一度に多数の受入が可能なので収益性が高い
• 一度に大人数を受け入れできる宿泊に比べて、畑もしくは牧場で完結できるため、負担感が大きく • なる
• 町の農業・農村の魅力の紹介・PR、農業や食への理解促進、消費拡大 • 農業者自らも豊かな人間性、生産者としての意識向上

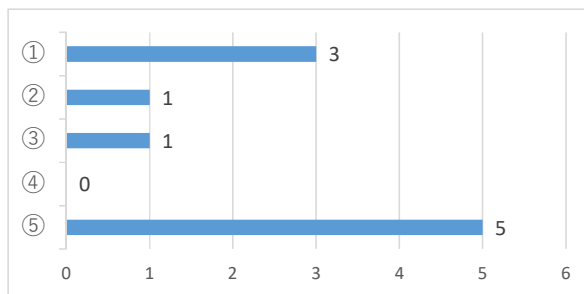
## ④ ファームビジットの短所

• 時間が短いことでコミュニケーションが取れない所
• 晴天時と雨天時の体験メニューをそれぞれ用意すること
• 農家との交流時間が少ない
• 時間が短いので、細部まで伝えられないことがある
• 体験時間が限られるため一部のみの体験しかできない • 体験料が民泊に比べ少し安価 など
• 学生との交流が浅くなり、リピートを狙いにくい
• 一度に多数を受入した場合のオペレーションのとりかた。・トイレ問題
• 受入農家で得意分野と不得意分野がある

28 貴団体がコーディネートする、現在、受入可能な人数を教えてください

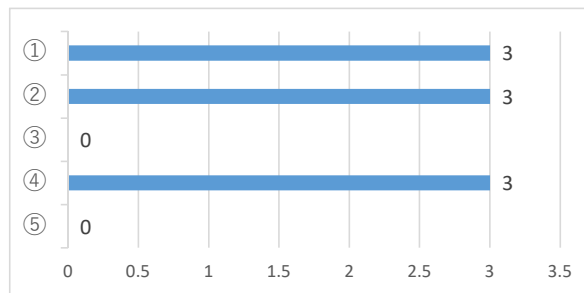
(1) ファームビジットの場合

- ① 50人迄
- ② 51~100人
- ③ 101~150人
- ④ 151~200人
- ⑤ 151~201人以上



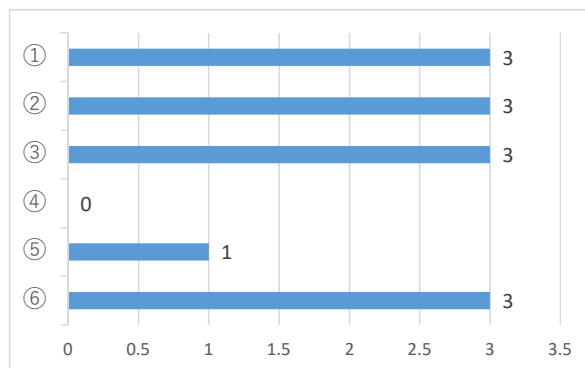
(2) ファームステイの場合

- ① 50人迄
- ② 51~100人
- ③ 101~150人
- ④ 151~200人
- ⑤ 151~201人以上



29 ファームビジットにあたっての課題はありますか (複数選択可)

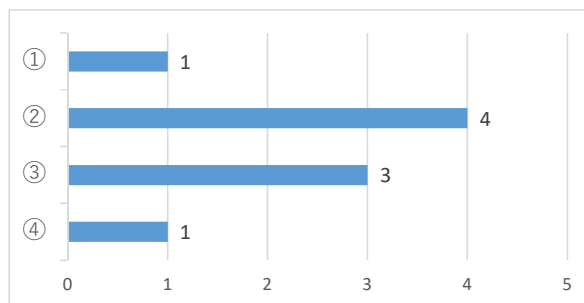
- ① 課題はない
- ② 旅館・ホテルのキャバがない
- ③ 旅行会社・学校側からの需要が少ない
- ④ 宿泊がホテルだと、採算がとれない
- ⑤ 宿泊先が、限られているため圃場への移動手段が課題である。
- ⑥ その他



- 受け入れ先の確保、安全管理
- 昼食の手配
- コロナ明けの受入再開

30 近年、物価が高騰している中、来年度以降の受入単価について貴団体の考えを教えてください

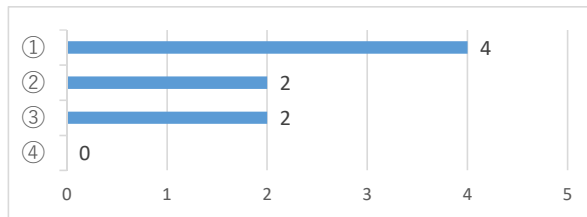
- ① 受入単価は、当分の間は変える予定はない
- ② 受入単価を上げることは確定している
- ③ 受入単価を上げることを検討している
- ④ その他



- 受け入れをやめることも検討

31 貴団体がコーディネートする来年度以降の教育旅行の需要は本年度と比べて、今後、どうなると思いますか

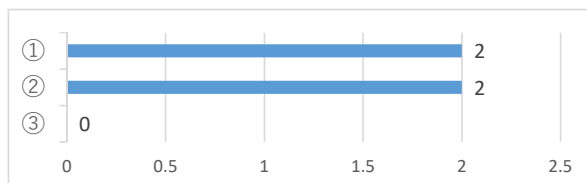
- ① 増加する
- ② 横ばいである
- ③ 減少する
- ④ その他



・ 分からない

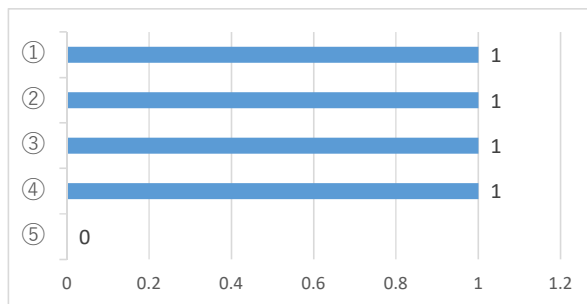
32 【上記31で①増加するを回答された方のみ】今後の教育旅行の増加の需要を踏まえて、貴団体の事務局体制はどうですか

- ① 現状で、支障はない
- ② 増加した場合、対応が困難
- ③ その他



33 【上記32で②増加した場合、対応が困難】の要因としての課題や支障となっているものを選択してください（複数選択可能）

- ① 旅行会社・学校側等との受入に関する事務量が多い
- ② 市町村や農家等との受入に関する事務量が多い
- ③ 人員不足が生じ、増員できない現状にある
- ④ 関係者との調整などのマネージメントの知識・人材が不足
- ⑤ その他



34 【上記32で②増加した場合、対応が困難】の要因としての課題や支障となっているものを選択してください（複数選択可能）

・ 旅程管理、受入業務経験のある人材を事務局内に配置

35 教育旅行受入にあたって、困っていることがあれば記載願います

- ・ 受入農家の減少
- ・ 受入農家数の減少及び新規受入農家の発掘
- ・ 我が社の人材不足
- ・ ファームステイの依頼があっても受入農家数が少なく受入れできないことから管内広域連携体制構築を目指しているが同志が増えるような雰囲気がない
- ・ 教育旅行と農泊の両立は、事務局側の負担が多く、取り組み方を工夫しなければならない

## V 教育旅行受入における地域間の広域的な連携について

36 広域（他団体との連携）での受入の①長所、②短所、③広域連携にあたり、支障となっているもの・課題となっているものを記載願います

### ① 広域での長所

<ul style="list-style-type: none"> <li>協力団体と連携が図れ、今後の受入れの際に協力していただける事</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受入回数の増加</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れ農家数を増やすことができる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>300名以上など大きな学校の受け入れにも対応ができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受入に共感している農家との連携がとりやすい</li> <li>生徒数が多くとも広域で連携することでキャパの確保がしやすい</li> <li>生徒にとって多様な経営者の農家さんや地域を知ることができる</li> <li>少数の受入れ戸数の地域や市町村でも受入の実績をつくりやすい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受入の枠が広がる。</li> <li>受入に対し、市町村によって受入に対する考え方は違うため、良い意味でアイデアを反映することができる。</li> <li>市町村ごとの地域資源をお互いに利用できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの人数の受け入れが可能</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内でお互いの強みを活かしながら推進が可能</li> </ul>

### ② 広域での短所

<ul style="list-style-type: none"> <li>逆に不測の事態が起きた際に、連携するのに時間を要する事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受入調整期間が短い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動時間が増加する。受け入れコーディネーターの負担増</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理や前後の行程の調整に時間がかかる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>本部と受入先の距離が遠くなる</li> <li>緊急時の対応が電話での連絡や地元事務局とでのやりとりとなり把握に時間がかかる</li> <li>旅行本体の次の行程への出発の時間がバラバラとなる。場合によっては朝早く出発しなければならない場合もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動手段の確保</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動距離に差が生じ、体験時間に差が出る可能性がある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>広域をコーディネートできる機能形成</li> <li>価格設定の相違</li> <li>分散することに対する旅行会社の対応</li> </ul>

### ③ 広域連携にあたり、支障となっているもの・課題となっているもの

<ul style="list-style-type: none"> <li>広域になると、移動距離が長くなるため、出発や到着時間に近郊の生徒さんと時間の差が出てしまうこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前の受け入れ内容のすり合わせが必要である</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れコーディネーターの負担増</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校側からなるべく近いエリアで行いたいとの要望がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的距離感、移動手段、移動方法</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動距離に差が生じ、体験時間に差が出る可能性がある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ブランディングをする中で事務局体制の整備</li> </ul>

## VI その他

37 情報交換会において、お聞きになりたい情報、他のコーディネート団体と情報交換したい内容について記載してください。

• 受入農家を増やすための効果的な方策
• 受入事業に対応する人材は足りていますか？ • 受入に参画している各団体の受入に対する昨今の意欲はどうか？